

新任薬剤師研修を終えて

東京医療センター 薬剤部 石田 史哉

出身大学：帝京大学（平成30年）
興味のある分野：がん、救命救急

平成30年4月より東京医療センターに配属となりました、石田史哉です。

大学では医薬品の立体化学の研究をしておりました。そのため医薬品開発にも興味がありましたが、医療従事者として臨床の場に立ち直接患者さんの治療に携わりたく思い、病院薬剤師となることを決めました。

第22回新任薬剤師研修会では、「医療安全」をテーマに講義やグループワークを行いました。

医療安全の講義では、実際に起こった医療事故から背景要因を知ること、今後対策を立てていく上では同職種だけでなく病院全体の他職種との情報共有が大切であるということ、これを改めて考えさせられました。また、自分の癖や思考傾向を把握することで間違いが起こる確率を減らせるということ、これを学びました。これまでの私は、自分自身が間違いを起こさないように注意すべき、という考えで完結してしまっていました。そのため、医療事故を未然に防ぐためには、個人が起こした間違いを組織全体で改善策を考え、同じ間違いを起こさないようにすることが重要であるということに気づくことができました。この考え方を実現させていくためには、私たち一人ひとりが常に意識し取り組んでいく必要があると思います。

グループワークでは、疑義照会を通してSBARやCUSといった概念を知ること、コミュニケーションにおいて内容や緊急度を効果的に伝える術を学びました。状況・背景・評価・提案を明確にさせることは、スムーズな連携を図るために実践的に活用できると思います。また、グループワー

クを進めていく中で、各々が所属している病院がどのような対策をしているか理解することができました。こういった機会に病院間で情報共有できるつながりがあることは有り難いことだと思います。

今回の研修を振り返り、中でも特に印象に残ったのが、「人は誰でも間違える」という言葉です。やはり私のような新人はもちろん、長年業務をしてきた方々でも、信頼のできる人が行う業務内容に対して無意識に安心感を抱いてしまうものだと思います。この言葉は、人を「信頼しても信用するな」という教訓なのだと私は感じました。

今回の研修で学んだことは特に調剤業務で活躍すると思います。現在の業務内容は調剤業務が中心なので、学んだことを積極的に活用していきたいと思っております。業務を始めて強く感じていることは、薬剤師という職種の重みです。薬剤師が薬剤を払い出すということは、患者さんの治療に対し責任がつかまとうということです。医療において、患者さんの安全は何よりもまず優先されるべきものであります。その責任の重さに向き合い、医療安全の観点から正確な調剤、処方鑑査、処方提案を行えるよう知識を身につけ努力していきたいです。

私は現在、がんや心血管系の分野に興味があります。東京医療センターは関信地区国立病院機構の中心であるため、多数の疾患、難しい症例に触れることができます。薬剤師としてできることには限りがありますが、この環境を自分の知識の糧にできるよう日々自己研鑽していきたいです。